

再エネ等を導入することで災害時に役立った事例 -令和6年能登半島地震-

- 令和6年1月1日に石川県能登半島を震源とする地震(最大震度7)により、広範囲で停電が発生。
- 環境省補助事業の支援を受け、庁舎に太陽光や蓄電池を導入した珠洲市、学校等にソーラー街路灯を導入した輪島市は、停電時にも電力が供給され、災害対応業務の遂行やスムーズな避難誘導に寄与した。

石川県珠洲市

施設名 : 珠洲市役所
導入設備 : 太陽光、蓄電池

<災害時の活用状況>

- 蓄電池に充電された電力によりLED照明が活用でき、**震災対応に集まった職員が災害対応業務を進めることができた。**

珠洲市役所における太陽光パネル、蓄電池の設置状況



写真提供 : 珠洲市

石川県輪島市

施設名 : 河井小学校ほか28施設
導入設備 : ソーラー街路灯 (避難誘導灯)

<災害時の活用状況>

- 避難所へ通じる避難路にソーラー街路灯 (避難誘導灯) を設置したことで、**避難所までの円滑かつ安全な避難に寄与。**

河井小学校におけるソーラー街路灯設置状況



写真提供 : 輪島市

※平成26年度再生可能エネルギー等導入推進基金事業 (環境省) を活用

※平成26年度再生可能エネルギー等導入推進基金事業 (環境省) を活用